

2024  
03

NISSAY | T vol.07  
Insight



ニッセイ情報テクノロジー株式会社

# About NISSAY | IT Insight



ちょっとした疑問の解消やアイデア創出に  
私たちの経験から生まれた知見や見識を  
お役立ていただきたい。

そのような思いを込めて  
NISSAY IT Insightを発行しております。

目まぐるしく変化するビジネス環境の中、  
束の間の一息にお読みいただけるよう、  
多様な専門性を持つ弊社社員が執筆した、  
バラエティに富んだコラムを様々な切り口で  
お届けいたします。

## コラム

**01** データサイエンティストに求められる役割  
[NISSAY IT版]とデータ分析の難所 3

---

**02** IT人材のミドルからシニアへの  
キャリア移行について 7

---

**03** 傾聴のススメ 11

NISSAY IT NEWS 14

---

# データサイエンティストに求められる役割 [NISSAY IT版]とデータ分析の難所

販売チャンネルソリューション事業部  
チーフマネジャー 吉富 康之/スペシャリスト 根本 嵩之

NISSAY ITのデジタルラボでは、データ分析支援やデータサイエンス技術を活用したソリューション研究を推進しており、データ分析企画からデータ分析、分析モデル(AI)構築、さらにはデータ分析基盤の導入まで担うデータサイエンティストが活躍しています。本コラムでは、私たちのデータ分析支援の経験に基づき、データ分析の難所や求められるデータサイエンティストについてご紹介します。

## はじめに

当社では、保険・共済、年金、ヘルスケア領域を中心にソリューションを提供しているNISSAY ITの業務ノウハウやシステムデザイン、データに精通していることを強みに、更なる業界の発展に貢献するために2023年度に「データサイエンティスト」というキャリアコースを新設しました。

## データサイエンティストとは

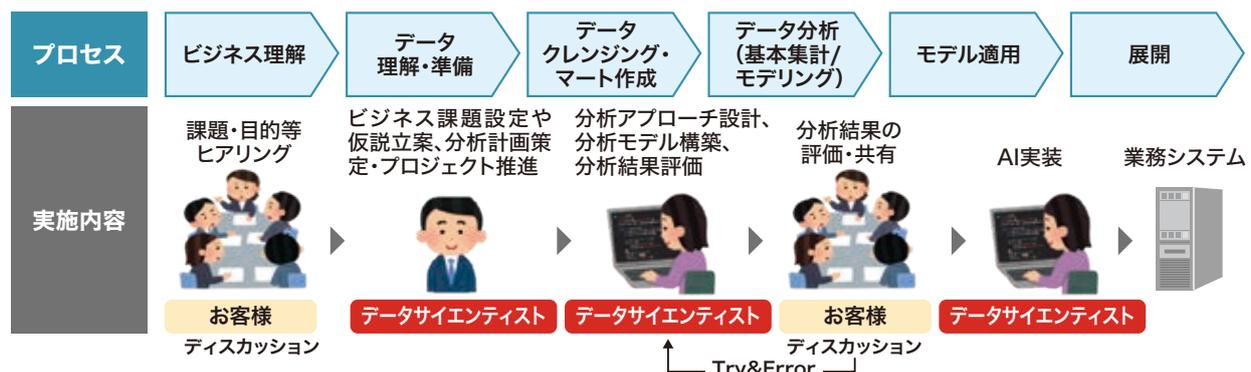
データサイエンティストは、2010年頃にディープラーニングの活用が本格化するなかで「21世紀の最もセクシーな職業」として注目を

浴び、実際に活躍の場も広がりつつあります。その役割は、社会課題やビジネス課題をデータを活用することで解決に導くことであり、データと格闘することで世界を変える職業と言えます。

データサイエンティストと聞くと「データと睨めっこしている人」をイメージしがちですが、役割は多岐にわたります。

図表1のとおり、データ分析のプロセスは、データの処理・解析にとどまりません。ビジネス理解に基づいて課題を設定し、データ活用で解決可能かを評価し、データ分析案件を企画・立案します。さらに、データ分析に必要なシステム環境のデザインや構築まで担います。分析完了後も、業務適用の支援、効果性評価、施策改善に向けたPDCA運営の支援等、企画から

図表1 データ分析プロセスとデータサイエンティスト



ビジネス活用までお客様に寄り添います。企画の場面ではコンサルタントに近く、分析の場面ではアプリケーション・スペシャリストに近い役割を果たします。いずれの場面でも、その根幹にはデータ分析技術に対する深い理解が必要です。

データサイエンティストに求められるスキルセットとして、独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) と一般社団法人 データサイエンティスト協会は「ビジネス力」「データサイエンス力」「データエンジニアリング力」の3つを定義しています(図表2)。

図表2  
データサイエンティストに求められるスキルセット

スキル	内容
ビジネス力	課題背景を理解し、ビジネス課題を整理・解決に導く力
データサイエンス力	情報処理・人工知能・統計学などの情報科学系の知恵を理解し使う力
データエンジニアリング力	データサイエンスを意味のある形として扱えるようにして、実装・運用する力

出典:独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) 「データサイエンティストのためのスキルチェックリスト/タスクリスト概説」

## NISSAY ITにおける データサイエンティストの定義

NISSAY ITでは、上記3つのスキルのうちどの

スキルに重点を置くかで人材モデルを定義しています(図表3)。

データ分析を推進する上で必要となる人材は、お客様のデータ分析の進展度合いによって異なると推察します。

例えば、eコマース業界や損保のテレマティクス保険のように、データ分析(とりわけ機械学習と呼ばれるAI技術)の活用が進んでいる業界・企業の場合、データ分析企画のリテラシーを備えている可能性が高いため、NISSAY ITに求められるのは、実行フェーズを担う「データ分析人材」や「データマネジメント人材」(特に高度なデータサイエンス力、データエンジニアリング力を持った人材)と考えられます。

一方、生保業界のように今はデータ活用の文化の醸成段階であり、業務での活用はこれから、という場合は企画フェーズを担う「データ分析企画人材」や「データ分析人材」が求められることが多いと感じています。

## データ分析の難所と 求められるデータサイエンティスト

これまでの分析支援の経験からデータ分析の難所ごとに陥りがちな失敗事例(地雷)と求められるデータサイエンティストを、図表4にまとめました。

図表3 NISSAY ITにおけるデータサイエンティスト人材の定義

ビジネス力 データ分析企画人材	データサイエンス力 データ分析人材	データエンジニアリング力 データマネジメント人材
<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客ビジネスの視点から、業務課題に対してデータとテクノロジーを駆使してソリューションを企画する人材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ分析の手法を熟知し、データ分析ソリューションの実装を主導する人材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ分析関連のアーキテクチャーを熟知し、データ分析ソリューションの環境を企画・構築する人材</li> </ul>

図表4 データ分析の難所と求められるデータサイエンティスト

### 1. 企画プロセス | 目的・課題設定の難所

#### 地雷①: あいまい分析



- 目的が定まっていない(ただAIを使いたい等)
- データがない、整理されていない(セル結合されたエクセル等)
- 分析への期待値がものすごく高い(AIが勝手にすごい発見してくれる等)

求められるのは…



#### 保険業務等の知見を活かした仮説が作れるデータサイエンティスト!

- 「データがない、目的が曖昧な分析なんてできない!」ではなく、業務知見を活かして、データの事例や課題と分析手法の紐づけを提案できる人材

### 2. 分析プロセス | 解釈・モデリングの難所

#### 地雷②: 結果ありき分析



- 元々想定した仮説に沿うような集計・可視化結果のみを求められる
- モデル(AI)評価の場面で専門用語を多用し、お客様の理解が不十分な状態で分析を進めてしまう

求められるのは…



#### お客様に寄り添った説明力の高いデータサイエンティスト!

- 地道に様々な視点で集計・可視化を行い、お客様の意図に沿わない結果も理解してもらえるように、専門用語もお客様の知識レベルに応じた説明ができる人材

### 3. 運用プロセス | 業務適用の難所

#### 地雷③: 使われない分析



- 分析で使ったモデル(AI)が実際の業務では使われない
- 分析を一度行って終わってしまい、その後の施策への効果検証やPDCAまで踏み込めない

求められるのは…



#### 業務設計・PDCAに踏み込めるデータサイエンティスト!

- 分析だけでなく、その結果を業務に活かしたビジネス施策までお客様と一緒に検討し、時には業務システムへの実装についても検討・提案できる人材

## おわりに

データ分析の難所における陥りがちな失敗事例と求められるデータサイエンティストを整理してみました。いかがでしたでしょうか。これからデータ分析を進めようとしているお客様にお役立ていただけますと幸いです。

データサイエンティストは成熟途上の職業です。今後、各企業でのデータ活用が進むにつれて、よりその価値が認められていくのではないのでしょうか。

当社では、先に記載した「データ分析の難所」を乗り越えられるデータサイエンティストを輩出し、お客様や業界、社会の発展に貢献していきたいと考えています。

## 執筆者プロフィール



生命保険会社の販売チャネル向けアプリケーション開発、データ分析基盤構築等のプロジェクトマネージャを歴任。現在は、デジタルラボ(東京)を担当し、データサイエンス関連のビジネス推進や人材育成に従事。

### 吉富 康之

販売チャネルソリューション事業部 チーフマネジャー



生命保険会社の販売チャネルアプリケーション、コールセンターシステムの開発に従事。現在は、データサイエンススキルを伸ばし、保険業務の知見を強みとするデータサイエンティストとして生損保向けのコンサルティング業務に従事。

### 根本 嵩之

販売チャネルソリューション事業部 スペシャリスト

# IT人材のミドルからシニアへの キャリア移行について

コンサルティング事業本部  
審議役 安達 秀樹

厚生労働省は「労働経済の分析」においてIT人材の長期的な不足に警鐘を鳴らしています。一方で、役職定年等をきっかけとして自身のIT人材としての価値やシニアとしての働き方を内省するなかで、将来に不安を覚えることも多いのではないのでしょうか。このコラムでは、ミドルからシニアへのキャリア移行について考察いたします。

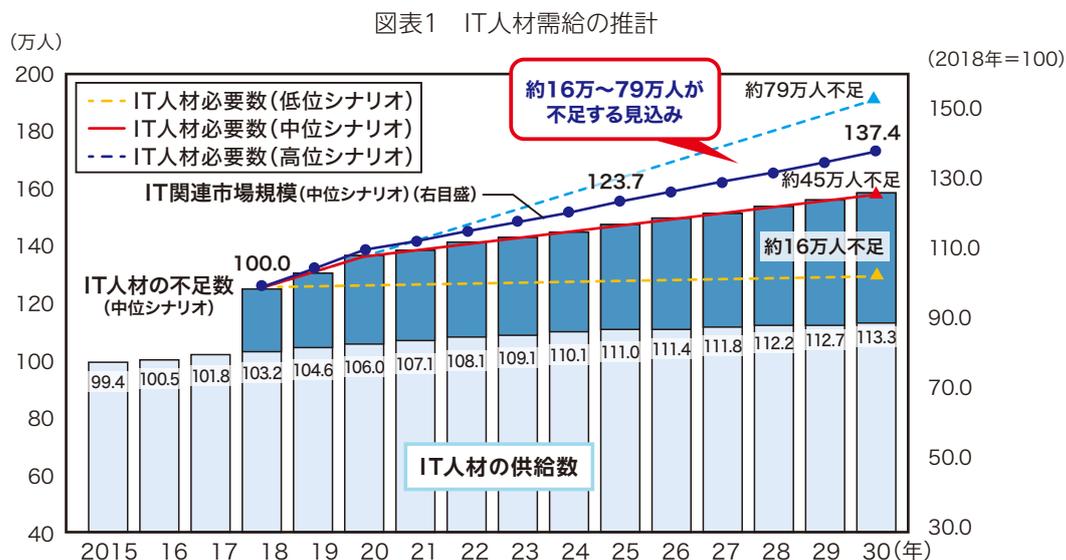
## IT人材は依然不足傾向だが 自分はこの先も必要とされるのか

厚生労働省「令和4年版 労働経済の分析」によれば、IT人材は2030年には約16万人から最大79万人の不足が見込まれています(図表1)。しかし、事業会社のIT部門を長くご経験された方や、弊社のようなユーザー系IT企業のベテラン層の方などは、IT人材といっても自分自身でコーディングもしばらくしていないし、自身のコアスキルが何なのか不明確だし、この先どういう役割を担っていけるのかと心配に思われることもあるかと存じます。とりわけ55歳以降、多くの企業でいわゆる役職定年が

始まる年齢以降の方は、IT人材不足の見通しと自身のキャリアの見通しを対比してもあまり実感が湧かないのではないのでしょうか。

私も一昨年に55歳を迎え、さらに丸1年が経ちました。IT人材の絶対数が不足していることは日常のプロジェクト運営の中で感じつつも、シニアへの移行過渡期にある自身のキャリアについて考えると、いつまでIT人材として機能発揮できるのか、会社や業界に今後必要とされるのか、むしろ心配なことの方が多いのが実情です。

ミドルからシニアへのキャリア移行段階にあるIT人材は、この先のキャリアをどう考えればよいのでしょうか。



【出典】厚生労働省「令和4年版 労働経済の分析」 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_27381.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_27381.html)

## 中国の帝王学に学ぶ 望ましいシニアの迎え方

まず、中国の帝王学の書として、儒教の経典「四書五経」の経書のトップに挙げられる「易経」<sup>えききょう</sup>から、望ましいシニアの迎え方を学んでみたいと思います。

易経では龍を王様に例えています。この龍は「潜龍」「見龍」「君子終日乾乾」「或いは躍りて淵に在り」「飛龍」「亢龍」と6つの段階を経て成長します。「潜龍」はいわば新人。「飛龍」は最も力を発揮する段階で、天を翔け雲を呼び慈雨を降らします。<sup>こうりゅう</sup>そして最後の「亢龍」は1つの達成に行きつき、窮まって衰退していく段階です。

龍の喉元には逆鱗<sup>げきりん</sup>があります。リーダーが自分の力を誇示して人の意見に耳を傾けなくなると、部下は逆鱗に触れたくないために本当のことを言わず、距離を置くようになります。しかし、リーダー本人は下り坂の亢龍になっていることに気がつかず、まだまだ飛龍の状態が続いていると思ひ込んでいます。そして、いつしかふと、慈雨を降らす雲がはるか下方にあり、どれほど声をかけてもついてこないことに気づくのです。雲を呼び慈雨を降らせることのできない亢龍は、もはや龍ではありません。

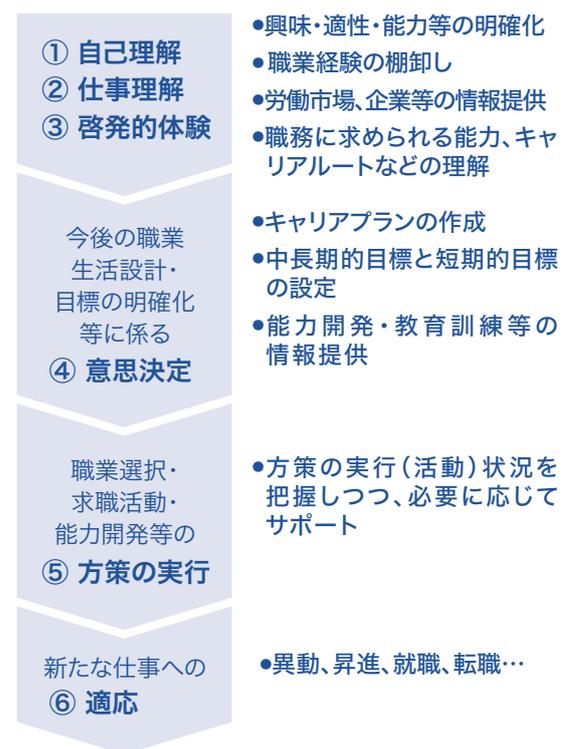
すなわち、易経のこの話は、地位が上がりすぎた人間の放漫さや、周囲の言葉に耳を貸さない危険性を教訓として教えているのです。

ミドルからシニアに至る過程で、IT人材もこのように飛龍から亢龍に至るのです。大切なのは、飛龍の段階から、自らのライバルとなる後任を育てたり、耳の痛いアドバイスをくれる方の意見をしっかりと受け止め、自らその地位を後継者に譲り、ゆるやかに亢龍に至ることと思料いたします。

## キャリアコンサルティングを 体系的に学んでみる

次に、時間軸を現代に移してみましょう。厚生労働省によれば、「キャリアコンサルティング」とは、労働者の職業の選択、職業生活設計または職業能力の開発および向上に関する相談に応じ、助言および指導を行うことをいいます(図表2)。また、「キャリアコンサルタント」はキャリアコンサルティングを行う専門家で、企業、需給調整機関(ハローワーク等)、教育機関、若者自立支援機関など幅広い分野で活躍しています。<sup>\*1</sup>

図表2 キャリアコンサルティングの流れ



### キャリア形成

職務経験や教育訓練等の積み重ねによる、段階的な職業能力の形成

#### 【出典】

厚生労働省が以下に掲載している情報を基に筆者作成  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000198322.html>

実は私自身、この1年間キャリアコンサルタントになるべく学習を続け、厚生労働省の国家資格を取得いたしました。

本来、キャリアコンサルタントは自分自身に対してキャリアコンサルティングを行うものではありません。しかし、その知識や技能は、自分自身のシニアへの身の振り方を考える際に非常に役に立ちます。

例えば、幼少期まで遡り、これまでの適性、強み、価値観等を探って自分自身の理解を深めたり、将来必要な家計費を算出してどの時期にどの程度の収入が必要なのか中長期にわたり計画化したり、そのうえでワークライフバランスをどのように考えるのか具体化したり、家族と家事や育児・介護の分担を明確にしたりと、65歳、70歳、75歳に何を柱としてどのように暮らしていきたいのかを理解するために必要な知識や技能を学ぶことができます。この知識や技能は、シニアへのキャリア移行を考えるにあたって極めて有効なものと思料いたします。

## 高度な専門性をどこまで追求するか

シニア期を迎えても活躍し続けるために、それまでに必死に学んできた高度な専門性を磨き続けるべきか否かは悩ましいところです。たしかに、弁護士、公認会計士、司法書士のような業務独占資格\*2で、必要な知識が比較的安定している職種では、これまでと同じ仕事で働き続けられる方は多く、独立し定年がなくなれば更にメリットも得られるでしょう。

一方のIT人材は、名称独占資格\*3であることに加えて、知識や技術は何度も刷新されます。高度な専門性を必要とする職種であればあるほど、専門性を向上し続ける難易度はより上が

ります。70歳や75歳になって、スキルアップし続けるキャリアを歩むことはそう簡単ではないのです。

もちろん、いくつになっても成長を続けることは好ましいことです。しかし、シニアになっても成長を追い続ける働き方を選ぶことは、必ずしもIT人材にとって望ましいこととは思いません。むしろシニア期においては、自分自身の価値観に基づき、社会貢献をしながら、自身が幸せと感じる仕事と生活を両立できるキャリアを能動的に選んでいくことが大切ではないでしょうか。

## 私自身はどう考えているか

最後に私自身がどう考えているかについて述べたいと思います。実はもう15年ほど前から、80歳まで現役で働きたいと考えていました。今でも、少なくとも70歳までは働きたいと考えています。働くことは人生の大きな部分を占めますし、若者に依存せず、自分で稼いだお金を日常生活で使う方が、自分に合っていると思うからです。もちろん、現役世代のポジションを奪うような働き方は嫌です。では、どういう仕事があるのでしょうか。

例えば、キャリアコンサルタントとIT知識を掛け算して、ハローワークのように人材の需給ギャップを埋める仕事を行いつつ、他業種からIT人材にキャリアシフトを希望する人にITサポートや基本情報処理試験レベルのIT基礎知識を学んでいただくための講師を兼任する仕事はできるのではないかと考えています。

そのためには、キャリアコンサルタントとしての仕事の経験も積みたいですし、そもそも強い興味を持っているIT関連の知識は現役状態を

継続したいと考えています。

今では、マイナンバーカードがあれば、年金支給開始年齢を70歳や75歳とした際の毎年の年金額を手元のスマートフォンで知ることができます。例えば、支給開始年齢を65歳から70歳に5年ほど延ばせば家計がなんとかなりそうであることがわかれば、その5年間に必要な年収がわかり、自身のワークライフバランスの考え方と照らし合わせ、非常に具体的な仕事選びへと課題が変わります。

漠然とした将来の不安から、65歳から70歳までの5年間でどう過ごすかという極めて具体的な課題に変わるので、非常に高い解像度で将来のキャリアを考えることができるわけです。

このように現時点では考えていますが、人間万事塞翁<sup>さいおう</sup>が馬<sup>ば</sup>ですので、今後も生じるであろうさまざまなキャリアインパクトを好意的に受け入れながら、ゆるやかに亢龍に至る道を歩みつ、幸せなシニアを迎えられればと思います。

#### 注釈・出典

- \*1 厚生労働省「キャリアコンサルティング・キャリアコンサルタント」  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/jinzaikaihatsu/career\\_consulting.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/career_consulting.html)
- \*2 有資格者以外が携わることを禁じられている業務を独占的に行うことができる資格
- \*3 有資格者以外はその名称を名乗ることを認められていない資格

#### 執筆者プロフィール



**安達 秀樹**

コンサルティング事業本部  
審議役

入社以来、生保・共済、ヘルスケア領域を主に、インフラ構築、アプリケーション開発、システム運用、コンサルティング等に従事。

また、日本アクチュアリー会IT研究会での若手育成、情報処理試験対策書籍やWeb記事の執筆、小学生へのプログラミング講習のボランティア講師等のプロフェッショナル貢献活動を18年にわたり継続中。

# 傾聴のススメ

ヒューマンリソース部  
上席スペシャリスト 西田 達哉

今般、ボランティア活動で学んだ「傾聴」の大切さとともに、適切に傾聴を行う上での心得、留意事項について紹介します。そのうえで、1人でも多くの方が、職場で、お客様との間で、ご家庭で、傾聴を行ってもらえたらと思っています。きっと今以上に人と人がつながっていくと思います。

## より良いコミュニケーションに向けて

当社では、社員1人ひとりの自発的な成長を支える仕組みとして 全社員に「学びの手当て」が支給されています。今般、この学びの手当てを活かして「傾聴」を広めるインストラクターになるための講座を受講し、ボランティア活動に参加しました。この活動は、「傾聴」の技術を子どもから大人まで広い層に体験いただき、困ったときに誰かに相談する文化、困った人に寄り添う文化の醸成に貢献することを目的にしています。

良いコミュニケーションは、挨拶、笑顔、そして「傾聴から」とも聞きます。働き方の多様化が進み、デジタルの活用などコミュニケーションの手法もさまざまになっていく中で、今一度「傾聴」という相手に寄り添って話を聴くことに焦点を当てた本コラムが、皆さまのより良いコミュニケーション作りに役立てていただければと思います。

## 傾聴の意義 ～愛を伝える活動～

傾聴とは、心を込めて聴くことです。「聴」の字のごとく、心を込めて目の前の人の話をしっかり理解しよう、そして、役に立とうとするときの聴き方です。傾聴は気持ちを相手に傾けて、話を

「聴く」ことを意味しています。

傾聴においてもっとも大切なのは、話した人が、「相手に話を聴いてもらえる、話していいんだ」と思えることです。自分を認めてもらえる、自分の価値を感じることができることが重要なのではないのでしょうか。傾聴は、話す人の存在そのものを認める、いわば「愛を伝える活動」なのだと思います。

## 傾聴するときのココロエ

傾聴するとき、相手に話をしてもらうために、ぜひとも心がけてほしいココロエ(心得)を3点ご紹介します。

### 1. 「遮らない」

まず、相手の話を遮らないことです。「傾聴」は、相手の話を「遮らず」「結論や結果を求めず」に聴きます。ビジネスの場面では「結果」を出すことが重視されるため、「目的」を持って対話することが求められる傾向があります。ここがビジネスでの会話との最大の違いかもしれません。

慣れないと難しいかもしれませんが、結論や結果を求めずに、「相手の流れにあわせて聴くだけでいい」「だから、こちらが特に何かを働きかける必要はない」と考えます。

## 2. 「否定しない」

次に否定しないことです。人は、一人ひとりが異なる存在で、それぞれの信念や正義感を持っています。育った地域や家庭が違うだけで、価値観も文化も異なります。このことを前提に「相手を尊重し話を受け入れる」聴き方です。「うん、うん、そうなんだ…」と応答するだけで十分です。否定されずに話を聴いてもらえることで、話す人は安心しますし、「話してよかった」と感じるものです。

## 3. 「助言は不要」

そして意外かもしれませんが、助言は不要です。「相手を全面的に信頼し、自ら答えを見つけるのを待つ」聴き方です。目の前の人のお話を、ただ聴く。たったそれだけのことで、話す人が自ら答えにたどり着くことができます。

思っていることを言語化するプロセスで、自分の考え、気持ちが整理され、自己理解が進み、その人らしい方法を自ら考え出すことができるようになります。

傾聴を実践する際は、今回ご紹介した心得を取り入れていただけると、とても嬉しいです。

## 傾聴したときの留意事項

次に、傾聴を実践する際に留意いただきたい事項を3点お伝えします。

### 1. 「秘密を守る」

聴いた話は誰にも話さないのが傾聴の基本です。秘密が守られることが前提にないと、人は安心して胸の内を語ることはできません。

そして秘密を守ることは、自身への信用、信頼感を一層高めることにもつながります。

### 2. 「情報開示について」

聴いた情報を開示しなければならないときは、本人に情報開示に関する承諾を得ることがベストです。しかし、本人に承諾を得る行為が、信頼関係にマイナスの影響をもたらす場合があります。ケースバイケースですが、本人には情報開示に関する許可を得ずに、関連する人々と情報共有をする場合もあります。これを「集団守秘義務」と言います。この場合の情報管理はより慎重に行う必要があります。あらかじめ、情報開示に関する取り決めを関係者全体に開示しておくことがトラブルを防ぎます。



### 3. 「適切につなぐ」

「これ以上は聴けないな」「自分では対処できないかも…」その感覚を大事にしてください。「何かあれば相談に乗る」とともに「必要であればしかるべき人や機関につなぐ」。カウンセリングの世界では、これを「リファー」と言いますが、リファーが適切にできれば十分です。部下や後輩の話を聴いた結果、自分1人では判断できないと感じた場合は、誰かに相談することが必要です。1人で抱え込みすぎないことも含めリファーは大切な行動、スキルです。

## さいごに

今回のボランティア活動で、幅広く様々な層の方に、傾聴の意義や、傾聴する上での心得について、伝えてまいりました。

その中で、皆さん、傾聴する／される経験が非常に少ないということを知りました。同時に、自身の話を傾聴してもらうことで満たされ、元気づけられたという声を非常に多く聴くにつけ、その意義・効果を強く実感しました。

このように「傾聴」することが文化として浸透していくことで、より良いコミュニケーションが生まれて信頼も強まり、共に働く仕事へのやりがいも高まるのではないのでしょうか。それにより、メンタルヘルス不調に陥る人を減らすこともできるかもしれないと思います。

今回、「学びの手当て」をいただいたことをきっかけに、より広い視野で研鑽を考えて「傾聴」に取り組むことができました。今後もこうした学びを続け、傾聴の技術を高めるとともに、ボランティア活動等に参加して、より多くの方に傾聴を広めていきたいと思っています。

### 執筆者プロフィール



**西田 達哉**

ヒューマンリソース部 上席スペシャリスト

1986年に日本生命保険に入社、情報システム部に配属。以降企保、個保、損保、医療・介護・健保、企画各部門を経験。現在ヒューマンリソース部にて障がい者雇用、シニア活躍推進企画等を担当。

## NEWS 1

### 2023年度IT賞(サステナビリティ領域)を受賞

NISSAY ITのサステナビリティ経営の推進における取組み『「人と向き合うIT」でお客様と共に社会課題へ貢献 ～サステナ経営を支える仕事の意義実感プロジェクト～』が評価され、IT協会より、第41回IT賞においてIT奨励賞(サステナビリティ領域)を受賞しました。

プロジェクトでは、全員参加型の取組みで「私たちが貢献しているお客様は誰か」「私たち

はどのように社会貢献できているだろうか」を話し合い、各部の社会貢献ストーリーを動画化しました(下図参照)。今後は社外向けにも公開していく予定です。

受賞にあたってはIT協会より、「IT業界共通の課題に対する一つの有効策となり得る」との評価をいただきました。

#### 社会貢献ストーリーの動画を作成し、仕事の意義を共有

- 社内のみならずお客様とも対話して練り上げた「社会貢献ストーリー」について、事業部ごとに約5分の動画を20本作成
- 動画にすることで、社員一人ひとりが語る仕事の意義の見える化と共通認識化につなげた
- 駅構内のデジタルサイネージ等でも公開予定。社員だけでなく社員のご家族やお客様にも見ていただくことで、当社への「誇り」醸成につなげる狙い



#### 事業部ごとの社会貢献ストーリーを作成

##### 各事業部内で対話

- ✓社員1人ひとりが自身の業務内容と社会貢献を結びつけ、意義を理解する

##### 事業部間で対話

- ✓事業部ごとの社会貢献の独自性を理解する

##### お客様と対話

- ✓お客様目線で新しい気づきを得る

## 当社主催のハッカソン「NISSAY IT ワッカソン2023」を開催しました

2023年12月19～20日の2日間にわたり、昨年度から引き続き2回目となる社内ハッカソン「NISSAY IT ワッカソン2023\*」を開催しました。

今回は「この壁をこえるIT」をテーマに、置かれた立場や環境の異なる人財同士での共創を通じた価値観の変容や、短い期間で新たなアイデアを実現するプロセスの体感を目的として開催しました。

当社および日本生命グループ各社から55名のメンバーが参加し、生成AI技術や各種ウェアラブル機器、ドローンなどを駆使して課題に挑戦しました。

著名な有識者を社外審査員としてお招きして、①オリジナリティ、②技術チャレンジ、③完成度の観点から評価いただきました。

最優秀賞には、コミュニケーションが苦手な人でも明るく会話を盛り上げられるよう、会話相手の特性に合った話題提供をサポートする「陽キャNAVI」が選ばれました。

\*ハッカソンに“ワクワク”や“輪”を掛け合わせて「ワッカソン」と名付けています

### ワッカソンの様子



## 福島県の復興支援活動の一環として「ふくしまマルシェ」を開催しました

NISSAY ITでは地域貢献活動の一環として、2022年から福島県の復興支援活動に参加しています。2023年度は、東京(10月)と大阪(11月)のオフィスにて、福島物の物産展「ふくしまマルシェ」を開催いたしました。

イベント当日は開催直後から大勢の社員が来場し、多くの品が完売になるなど、大盛況となりました。

2024年度も引き続き、地域貢献活動に取り組んで参ります。

ふくしまマルシェの様子



発 行 ニッセイ情報テクノロジー株式会社  
〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア  
<https://www.nissay-it.co.jp/>

発行人 徳永 正志

編集人 橋本 滋美

問合せ先 コンサルティング事業本部  
TEL : 03-6897-8861 E-mail : [info@nissay-it.co.jp](mailto:info@nissay-it.co.jp)





ニッセイ情報テクノロジー株式会社

